

中新田町文化會館

Nakaniida Bach Hall

●名称／中新田町文化會館（呼称バッハホール） ●所在地／〒981-42 宮城県加美郡中新田町字一本杉101 番地 ●管理運営／中新田町教育委員会社会教育課 ●電話／0229(63)7367 ●テレフォンサービス／0229(63)2222 ●開館時間／午前9時～午後9時（お問合せ 午前8時30分～午後5時） ●休館日／月曜日・祝祭日の翌日・12月29日～1月3日 ●駐車場／150台 ●構造／鉄骨鉄筋コンクリート4層建（1部5層） ●敷地面積／5,618.75㎡ ●建築面積／2,249.13㎡ ●延床面積／2,344.33㎡ ●客席数／780席（固定席660・補助移動席120 ワンフロア式） ●舞台間口／14.80m ●舞台奥行／9.0m ●プロセニウム高／9.55m ●ホール内容積／6,630㎡ ●残響時間／可変可能 1.1秒～2.0秒(500Hz) ●付属室／音楽資料室・リハーサル室(2室)兼控室(4室)・特別控室 ●建物設備／冷暖房・残響可変壁・ステンドグラス ●主要備品／パイプオルガン・ピアノ（スタインウェイ・ヤマハCF）・チェンバロ・仮設花道・所作台・ML装置 ●設計／建設基本構想 材野博司（東北工業大学）・音響設計技術協力 日本放送協会総合技術研究所・設計 建築家吉田イサム事務所 ●施行／大林組・丸か建設建設工事共同企業体 ●工期／昭和54年12月1日～昭和56年2月15日

NAME: Nakaniida-machi Bunka kaikan
(Nakaniida Cultural Center)
NICKNAME: Bach Hall
ADDRESS: 101 Ipponsugi Nakaniida-machi, Kami-gun
Miyagi Prefecture, Japan 981-42
MANAGEMENT: Community Education Division
Nakaniida Board of Education
TELEPHONE: 0229(63)7367

PARKING: For 150 cars, free of charge.

SITE AREA: 5,618.75 m²

BUILDING AREA: 2,249.13 m²

FLOOR SPACE: 2,344.33 m²

SEATING: 780 seats (660 permanent seats,
120 movable seats)

STAGE WIDTH: 14.8 m

STAGE DEPTH: 9.0 m

PROSCENIUM HEIGHT: 9.55 m

AUDITORIUM SPACE: 6,630 m³

REVERBERATION TIME: 1.1 ~ 2.0 seconds
(500 Herz) Adjustable

ROOMS: Music Library, 2 Rehearsal
Rooms, 1 Green Room

MAIN FACILITIES: Organ, Piano
(Steinway and Yamaha CF),

Cembalo(Bach), Music Laboratory System
CONSTRUCTED: February 15, 1981



主張こめた文化会館

1952年ノーベル平和賞を受賞したアルベルト・シュヴァイツァーは有名な著作「バツハ」でこう書いている。

「わたしがバツハを知ったのは10歳のときだった。エルザスの教会オルガニストが、土曜日の晩に、わたしをオルガンのところへ連れて行ってくれたのである。わたしは、あの素晴らしい古いヴァルターのオルガンの神秘的な音が暗い教会に消えてゆくのに、深い感動をもって耳を傾けたのであった」

(白水社刊)

この10歳の少年のときの衝撃が、後年、哲学者、神学者となり、アフリカに渡って長く原住民の医療にたずさわった一人の人間の生涯に、決定的な影響を与えたことをこの告白は物語っている。

わたしたちの町が、この中新田町文化会館を建設した意味について多くの説明はいらない。わたしたちは、このホールを訪れる少年たち、その中の幾人かが、何を得、何を感じとっていくか——それを今後数十年間、待ち、そのために準備をしたということである。

地方文化の振興が安易に主張されていることに、わたしたちはさまざまな怒りを持っている。それはたとえば、微々たる補助金による施策が象徴する中央のおすそ分け的な発想と地方に住む人間と文化への偏見とである。わたしたちがもし貧しい文化しか持ちえず、貧しい精神に陥っているとしたら、それはわたしたち自身に帰するものが多いとしても、そうならざるをえぬ何ものかがなかったらうか。

わたしたちはこうした問題に、会館の建設のしかたで幾つかの主張を意図し、そのために明確な思想を貫いたつもりである。その一つはバツハのような普遍的で歴史的な高い芸術に多くの人々が触発されることを念願したことである。二つめは、小さく質素でもこの目的に合致するよう音響など質の高いホールをめざしたこと、三つめは建築空間が人間に少なからぬ影響を与えることを配慮したことである。

バツハホールは、その後の運営で、音楽家の人たちから評価され、また地域の人々の誇りとなりつつある。今後私たちが、このホールを通じて国内の人々はもとより、海外の多くの人々とも心を通わせ、ともに語りあいたい。

その過程が地域づくりであり、また地域文化の創造に結びつくことを夢めている。



The Meaning of our Bach Hall

Albert Schweitzer, winner of the 1952 Nobel Peace Prize, says the following in the preface to his famous work, *JS.BACH*:

" Ich war zehn Jahre alt, als ich die Bach'schen Choral vorspiele kennenlernte. Eugen Münch, der Organist der Stephanskirche zu Mülhausen im Elsass, nahm mich an den Samstagabenden mit auf die Orgel, wo er sich auf den sonntäglichen Gottesdienst vorbereitete. Mit tiefer Ergriffenheit folgte ich den geheimnisvollen Tönen des herrlichen alten — jetzt leider renovierten — Walckerschen Instrumentes, die sich in der dunkeln Kirche verlorén. "

This passage tells of a decisive influence on the life of a single 10-year-old, who would later become a philosopher, theologian and medical doctor serving the people of Africa for many long years.

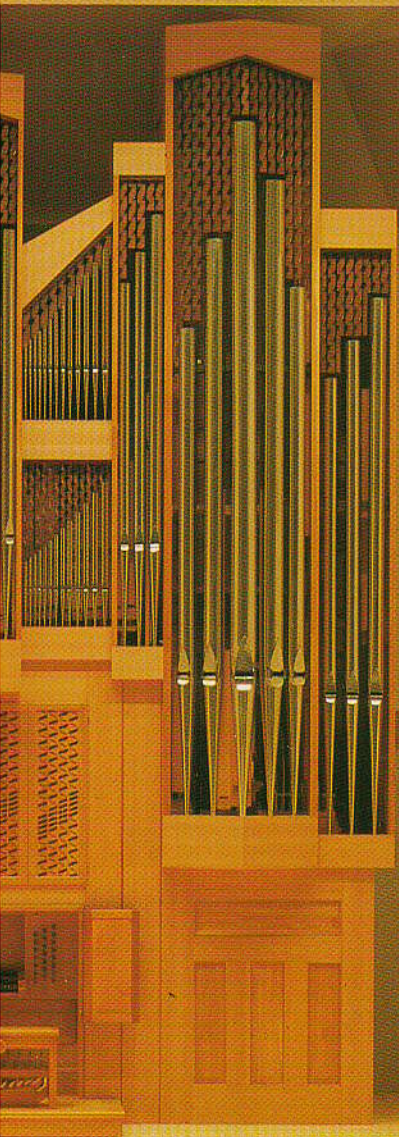
For us in Nakanishi, the reasons for building our chamber music hall are simple. We are content to see our children coming to this hall, and to hope that some of them are gaining valuable impressions here. We will not know the effects for many years yet. But for them we have built this hall.

We get angry when we hear people talk easily about "the promotion of local culture." We hear this call in the trickle meager subsidies that the central government donates to us, and we hear it in the prejudiced ideas about the people and culture of the rural areas. If it is the case that we have an impoverished culture and an impoverished spirit, this may be largely due to ourselves, but there have also been external causes. I believe.

In the face of such a challenge, the act of building this hall has been an expression of three goals. First, to enlighten many people with the great music of the universally recognized masters such as Bach. Second, to build a hall which although small and simple, might have excellent acoustics for the appreciation of such music. Third, to create an architectural space in consideration of the great influence it would have upon people.

Since Bach Hall opened, it has drawn high acclaim from musicians and it has become the pride of the people of our area. Through this concert hall we are happy to meet and talk with many friends, not only from various parts of Japan, but also from many other countries.

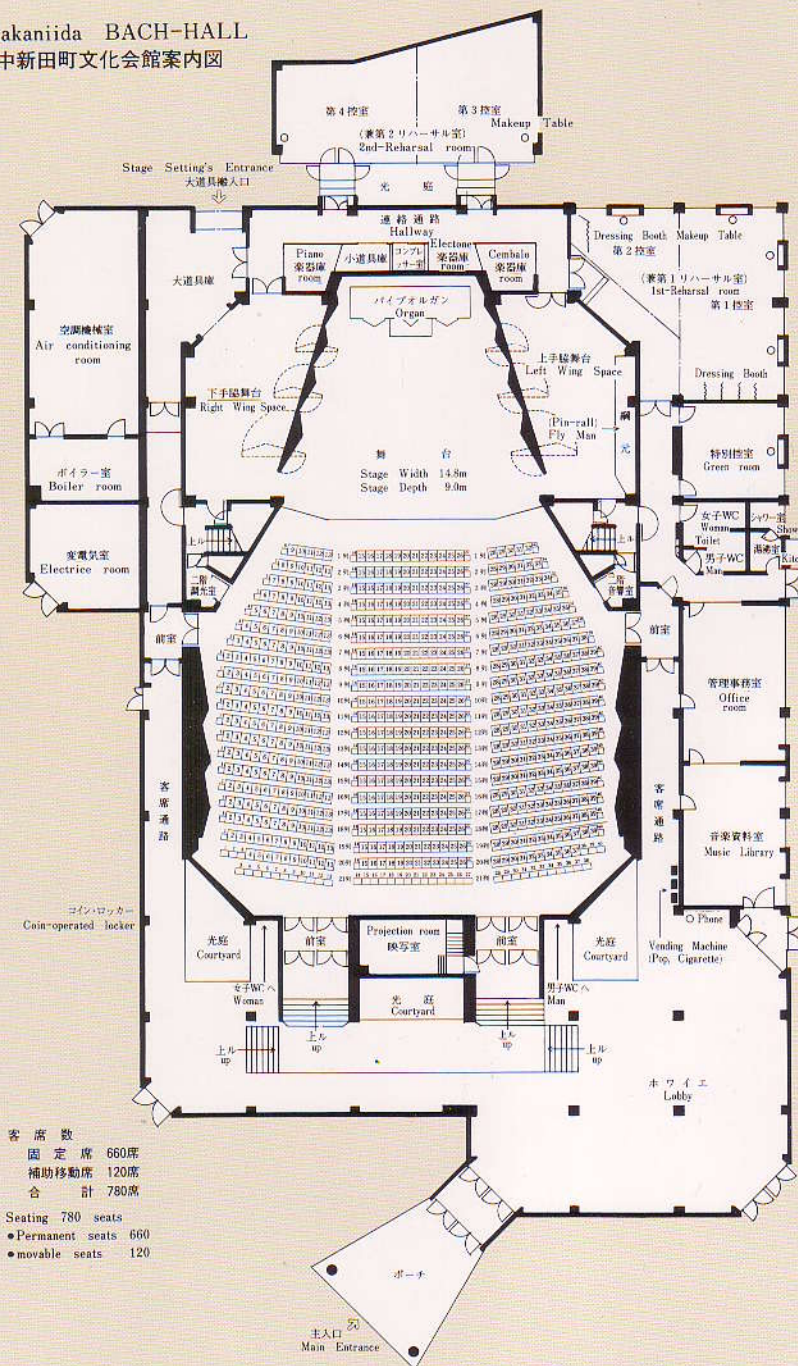
This process is the real work of "regional development," and the creation of a local culture in Nakanishi. It is our dream come true.





Nakaniida BACH-HALL

中新田町文化会館案内図





ノイベルト：バッハ



音楽資料室



ホワイエ



ステンドグラス



パイプオルガン概要 Disposition

第1鍵盤 Hauptwerk (風圧 水柱70mm)
Principal 8' Quintade 16'
Oktav 4' Bourdon 8'
Cornett ab f 2f. Hohlflöte 4'
Mixtur 4-5f. Waldflöte 2'
Trompette 8'

Terz 13 1/2'
Dulcian 16'
Cboe 8'
Tremulant

第2鍵盤 Brustwerk (風圧 水柱55mm)
Principal 4' Holzgedeckt 8'
Oktav 2' Rohrflöte 4'
Cymbel 3f.
Krummhorn 8'
Tremulant

足鍵盤 Pedal (風圧 水柱75mm)
Principal 16' Subbaß 16'
Oktav 8' Gedecktbaß 8'
Choralbaß 4'
Mixtur3f. 2 2/3' Posaune 16'
Trompette 8'

第3鍵盤 Schwellwerk (風圧 水柱65mm)
Spitzgambe 8' Schwebung ab c 8'
Principal 4' Koppelflöte 4'
Plein-jeu 3-5f. Nasard 2 2/3'
Gedeckt 8' Flöte 2'

企画・監修 松原 茂
Disposition 松原 茂・須藤 宏
デザイン・設計・製作・整音 須藤オルガン工房

バッハホール 10周年 1981-1991 歩み

●経過

昭和52年1月「人間性を高めるまち・みんなの健康を守るまち・川と公園のあるまち・働く喜びのあるまち」を指針とした町の長期基本構想・クローバープラン制定。この中で『歴史と音楽で生涯学習』の方向が示され、文化活動の拠点として、文化会館建設がクローズアップされる。

53年7月住民代表25名からなる文化会館建設委員会、都市計画、音楽、文化活動などの学識経験者12名からなる建設専門委員会が発足。文化施設の建設経緯も一つの文化である、との認識のもとで、会館の必要性和あり方について調査、検討を開始する。会議の内容は広報紙に掲載、町政懇談会で議論を続けるうちに、またマスコミで報道されることにより、文化会館建設の是非論が展開される。

54年3月建設専門委員会から「文化会館建設に関する提案(調査研究報告書)」、建設委員会から「建設基本構想(答申書)」が提出される。

町議会で54・55年度の2ヵ年継続事業として建設が決定し、12月に着工する。

56年2月落成。建設委員会で『バッハホール』の名前がつけられる。

落成記念演奏会で指揮した芥川也寸志氏が「日本一の音響」と高く評価、ゲヴァントハウス管弦楽団のコンサートマスター、ゲルハルト・ボッセ氏が「世界屈指のホール」と語り、全国的に注目を浴びる。この間、日本文化デザイン会議(梅原猛代表)から地域文化デザイン賞、実施設計を担当した吉田イサム氏が日本建築学会から東北建築賞を受賞する。

59年4月パイプオルガンが設置される。(34ストップ、パイプ数2,193本)

平成元年6月「地方の音楽文化創造の拠点としての優れた業績」に対し、サントリー文化財団から「地域文化賞」を受賞。

●主な自主事業

昭和55年度

▷2・15落成式・町民芸能まつり ▷2・22デュークエイセスとともに ▷3・15東北民謡まつり ▷3・29N響室内楽への誘い(チェンバロ アンリエット・ピュイグ・ロジェ)

昭和56年度

▷4・26浅野繁ピアノ ▷5・24ベートーヴェン第九演奏会(町民合唱団 202人 宮フィル 芥川也寸志指揮) ▷6・28ゲヴァントハウス・バッハ・オーケストラ ▷7・24合唱ジョイントコンサート ▷8・27東京フルートアンサンブルアカデミー ▷9・11ライブツィヒ放送吹奏楽団 ▷10・23ハインツ・ホリガー木管アンサンブル ▷11・1新劇まちがいつづき(仲谷昇ほか) ▷11・13アメリカ少年合唱団(小中学生交流演奏会) ▷12・20おたのしみふるさと寄席(柳家小さん・内海桂子・好江ほか) ▷3・7ベルリンフィル八重奏団



ベートーヴェン第九演奏会

昭和57年度

▷4・18タチアナ・ニコライエワ ピアノ ▷6・20フランス金管五重奏団 ▷7・4東北民謡まつり ▷7・15ウィーン・モーツァルト少年合唱団(小中学生交流) ▷アメリカ オハイオ州国際親善合唱団(民泊2日) ▷8・1-2若アユ哲学塾(辻村明 森敦 佐渡ヶ嶽親方 みなみらんぼう ほか) ▷8・14コンパニオ



スメタナ弦楽四重奏団

●ホールの利用状況

(昭和56年2月～) 上/公演回数 下/利用者数(入場者数)

年度		S 55	S 56	S 57	S 58	S 59	S 60	S 61	S 62	S 63	H 1	H 2	合 計
区分		S 55	S 56	S 57	S 58	S 59	S 60	S 61	S 62	S 63	H 1	H 2	合 計
ホール使用日数		7日	69	109	95	173	174	196	168	192	209	217	—
自主事業	単 独	5回 3,385人	9 4,935	11 5,884	12 4,131	23 7,653	27 6,137	30 7,943	28 5,706	24 5,573	23 4,302	18 1,811	210 57,460
	共 催	0 0	4 2,124	4 2,352	3 1,513	6 2,800	11 5,151	7 3,173	6 1,443	6 1,811	20 8,733	20 6,706	87 35,806
	小 計	5 3,385	13 7,059	15 8,236	15 5,644	29 10,453	38 11,288	37 11,116	34 7,149	30 7,384	43 13,035	38 8,517	297 93,266
貸 館		4 2,085	60 20,633	96 32,044	68 26,632	107 49,375	80 33,722	98 34,850	85 38,522	95 37,316	85 27,711	105 35,134	883 338,024
計 公 演 回 数		9	73	111	83	136	118	135	119	125	128 (40,746)	143 (43,651)	1,180
利 用 者 数		5,470	27,692	40,280	32,276	59,828	45,010	45,966	45,671	44,700	43,542	46,575	437,010
リハーサル室等 （ホール以外）の利用 者数		1,712	13,527	14,988	12,307	15,579	27,097	27,192	24,419	20,777 (10,779)	17,686 (10,188)	11,199 (6,958)	186,483
利 用 者 総 数		7,182	41,219	55,268	44,583	75,407	72,107	73,158	70,090	65,477	61,228	57,774	623,493
ソサエティ会員数		—	512	998	1,363	1,793	2,067	1,442	1,092	1,143	1,221	1,672	—

ン・ドゥ・ミュージク ▷10・1-3 バッハホールフェスト〔新鋭招待コンサート 東北の作曲家 スメタナ弦楽四重奏団〕
▷10・10 西独ライト室内合唱団〔民泊2日〕 ▷12・5 中村紘子ピアノ ▷12・21 和泉流狂言鑑賞会〔野村万作ほか〕 ▷3・13N 響室内楽への誘い

昭和58年度

▷4・10 ツールーズ室内管弦楽団〔フルート金昌国〕 ▷5・22 デジャー・ランキ ピアノ ▷宗倫匡〔ヴァイオリン〕・宗施月子〔ピアノ〕ジョイント ▷7・10 高橋竹山 ▷8・6-7 若アユ哲学塾〔原二郎 宗左近 白井義男 高橋功 さとう宗幸ほか〕 ▷9・2 小林武史ヴァイオリン ▷10・1-2 バッハホールフェスト〔東北の作曲家 ドイツ・バッハ・ソリスト〕 ▷12・11 円丈・小朝二人会
(パイプオルガン設置)
工事11月-3月



ドイツ・バッハ・ソリスト

昭和59年度

▷4・14 パイプオルガン落成披露 ▷4・15 広野嗣雄オルガン ▷5・9 カンタータとオルガン音楽の夕べ〔カンタータ合唱団 宮フィル ヘルムート・リリング指揮〕 ▷6・10 漆原啓子〔ヴァイオリン〕・清水和音〔ピアノ〕デュオ ▷7・20 パリ少年合唱団〔小中学生交流〕 ▷8・4-5 若アユ哲学塾〔加藤陸奥雄 原貢 上田真仁ほか〕 ▷8・12 東北民謡まつり ▷9・16 前橋汀子ヴァイオリン ▷10・5 札幌交響楽団〔岩城宏之指揮〕 ▷11・4 長島伸子ソプラノ〔宇野功芳解説〕 ▷11・10-11 バッハホールフェスト〔東北の作曲家 パイヤー室内管弦楽団〕 ▷11・25 マレク・クードリキ オルガン ▷12・16 沢井一恵・箏の現在 ▷1・27 ドイツバッハ管弦楽団 & 合唱団 ▷3・21 佐藤陽子ヴァイオリン



カンタータとオルガン音楽の夕べ

昭和60年度一 バッハ生誕300年記念

▷4・21 河野和雄オルガン〔故松原茂先生追悼〕 ▷5・12 佐藤ミサ子オルガン ▷5・19 橋本英二チェンバロ ▷5・29 グリー・カー コントラバス ▷6・9 バリ音楽祭室内合奏団 ▷6・23 広野嗣雄オルガン ▷7・11 ブラハ少年少女合唱団〔小中学生交流〕 ▷8・4-5 若アユ哲学塾〔西澤潤一 宗左近 小池マリほか〕 ▷9・22 松尾泰江 石田牧子オルガン ▷9・29 小林武史ヴァイオリン ▷10・14 グレイト・ジャズ・カルテット〔ハンク・ジョーンズ レイ・ブラウンほか〕 ▷10・20

バッハホールのオルガン

多くの問題を解決しなければならないのはオルガンを計画する時の常である。中新田バッハホールは音楽専用ホールとはいえ、オルガンが育ってきた西洋建築とは異なる音響空間である。大きさの制約、多様式にわたる音楽的要求等、与えられた条件の中でいかに最良の解決法を見出すかに努力を要した。

多くの様式に対応しようということは、多くの様式を備えるということではない。チェンバロやリュート、ガンパのように、ある時期全く失われてしまった楽器と異なり、オルガンとオルガン音楽は脈々と生きつづけてきた。多くの可能性を備えることと、多くの様式に完璧であるということは両立し得ないということを知った上で多くの様式に対応する可能性のある楽器を作ろうとすることは、このようなホールにオルガンを計画する場合不可決の考え方であろう。制約がある音栓数を3段の手鍵盤と足鍵盤に配分するにも、前記の観点から工夫を要した。正面中央の演奏台の上が第2鍵盤部で小型オルガンの要素を持っており、色彩の変化に富んだ音色を持っている。その上が第1鍵盤部で、このオルガンで最も中心になる重要な音色を配している。最も上の部分が第3鍵盤部で、ロマン派以降に使われるようになった、音量を連続的に変化する扉を整えており、従ってロマン派の時代に好まれた音色も配されている。左右の大きな塔は足鍵盤部で、低音を受け持つパイプと、足鍵盤によるソロを受け持つパイプが配されている。

パイプには錫鉛合金製、木製等それぞれのパイプの出すべき音色に従って各種の材料を使用する。大多数はたて笛の構造を持ったパイプで、一部、真鍮製のリードを発音体とするパイプもある。いずれも1本でひとつの音色のひとつの音程だけを受け持つ。

各鍵盤部分へは送風機から常に風が送られており、鍵盤を押すことにより、パイプの下にある弁が開かれ、パイプに空気が送られて音が出るようになっている。奏者の意志が指から鍵盤、さらにメカニズムを通して弁に至り、空気の流れの変化となって、パイプの発音のしかたに変化をもたらさなければならない。音楽家が良い声だけでなく、良い肺を持っていないといけないように、オルガンも多様に変化する空気の消費量に余裕をもって対応できなければならない。各鍵盤部は、安定した風圧を得るために、それぞれ独立した調圧フイゴを備えている。大多数のパイプが立っている風箱には、音楽表現の可能性と耐久性を長い歴史の中で実証しているシュライフラーデ方式を使っている。

パイプオルガン製作者
須藤オルガン工房

須藤 宏

伊澤長俊 ブライアン・アシュレー オルガン ▷11・3 バロック
アンサンブルのタベ ▷11・10 ベルリン国立歌劇場室内管弦楽
団 ▷11・24 早島万紀子オルガン ▷11・30-12・1 バッハホ
ールフェスト〔東北の作曲家 バッハ・マタイ受難曲（聖ト
マス教会合唱団 ゲヴァントハウス管弦楽団 ハンス・ヨアヒ
ム・ロッツシュ指揮）〕 ▷1・26 ミュンヘン・バッハ合奏団 ▷
2・23 ベーター・ダム ホルン



バッハ生誕300年記念マタイ受難曲演奏会

昭和61年度

▷5・25 東京カルテット ▷6・1 クルト・ラブフオルガン（
共演ヨゼフ・モルナール）▷6・29 ザルツブルグ・モーツァ
ルト・アンサンブル ▷7・5 ブルース・フォアマン・ジャズ
カルテット ▷7・17 ウィーン少年少女吹奏楽団 ▷7・20 千
住真理子ヴァイオリン
▷8・17 飯塚由美・伊藤
恵オルガン ▷9・20 ス
ヴァトスラフ・リヒテル
（ピアノ）オレグ・カガ
ン（ヴァイオリン）▷
9・28 リディア・コズベ
ック ピアノ ▷10・19
ペーター＝ルーカス・
グラーフ フルート ▷11・23 シュトゥットガルト放送交響楽団
〔ネヴィル・マリナー指揮〕▷11・24 マリー＝クレール・アラ
ン オルガン ▷12・21 ベートーヴェン第九演奏会〔バッハホ
ールオープン5周年記念特別演奏会 第九をうたう会合唱団 宮
フィル 芥川也寸志指揮〕



マリー＝クレール・アラン

昭和62年度

▷4・19 田谷力三 ▷5・24 藤原真理チェロ ▷6・28 ソフィア・
ソリステン弦楽オーケストラ ▷7・12 海野義雄ヴァイオリン（小
林仁ピアノ）▷8・8 響室内楽への誘い ▷8・22 バッハの
タベ ▷10・10 ベルリン室内管弦楽団 ▷10・25 アンドレ・イ
ゾワール オルガン ▷11・21-29 バッハホール・フェスト



バリ弦楽三重奏団

〔東北の作曲家'87 ル
ツェルン祝祭弦楽合奏
団（ルドルフ・パウム
ガルトナー指揮） 広
野嗣雄オルガン スコ
ットランド室内管弦楽
団（ジェームス・ロッ
ホラン指揮）〕▷12・
10 バリ木の十字架少年

合唱団 ▷12・13 ダヴィッド・ゲリンガス チェロ ▷1・24
コレギウム・ムジクム東京 ▷3・19-21 第2回中新田映画祭
〔美輪明宏 バリ弦楽三重奏団〕

昭和63年度

▷4・17 ボロディン弦楽四重奏団 ▷4・24 大津純子ヴァイオリ
ン ▷5・29 ベルリン
・フィル・ヴィルトオ
ーゾ ▷7・17 夢のト
リオノ〔ヨゼフ・スー
ク（ヴァイオリン）堤剛
（チェロ）ダン・タイ
・ソン（ピアノ）〕▷
7・21 レーゲンスブル
グ少年合唱団 ▷8・
7 合唱団OMP ▷9・15 日本舞踊〔文化庁移動芸術祭〕▷
9・23 モスクワ放送交
響楽団（フェドセーエ
フ指揮）▷10・23 小
林武史ヴァイオリン（パ
ヴォル・コヴァチ ピ
アノ）▷11・3 ロン
ドン・バロック ▷11
・23 ウィーン木管アン
サンブル ▷12・11 ル
ディガー・ローマン（オルガン）田宮堅二（トランペット）



レーゲンスブルグ少年合唱団



ロンドン・バロック

ディガー・ローマン（オルガン）田宮堅二（トランペット）

平成元年度

▷4・23 吉野直子（ハーブ）・工藤重典（フルート）▷5・14
ユーリ・バシュメット&モスクワ・ソロイスト合奏団 ▷6・
11 タリス・スコラーズ
▷7・16 ヤン・パネン
カ（ピアノ）漆原啓子
（ヴァイオリン）▷7
・19 ブルガリア国立ソ
フィア少年少女合唱団
▷7・30 大原佳代オル
ガン ▷10・8 セルゲ
イ・スタドレル ヴァイ
オリン ▷10・22 ベルリン・カメラータ・ムジカ合奏団 ▷11
・19 バッハホール記念
演奏会〔ブライアン・
アシュレー（オルガン）
浅野繁（ピアノ）菅英
三子（ソプラノ）仙フ
ィル 記念合唱団 指
揮片岡良和・末廣誠〕
▷12・3 ドイツ・バッ
ハ管弦楽団&合唱団



タリス・スコラーズ



バッハホール記念演奏会

「バッハ クリスマス・オラトリオ」

平成2年度

▷4・30「マタイ受難曲」演奏会〔マタイ研究会合唱団&管弦楽団、
仙台少年少女合唱団、ディートハルト・ヘルマン指揮、共催〕

▷ 6・17キングス・コンサート ▷ 7・29混声合唱曲「縄文連禱」初演〔作詞宗左近 作曲三善晃 合唱「創る会」田中信昭指揮〕▷ 9・16セント・マーチン・アカデミー管弦楽団（ネヴィル・マリナー



セント・マーチン・アカデミー管弦楽団

指揮 堀米ゆず子（ヴァイオリン）▷ 9・30小林武史（ヴァイオリン）& ヨゼフ・ハーラー（ピアノ）▷ 10・10ナターリヤ・グ



アンサンブル・ウィーン=ベルリン

ートマン（チェロ）& エリン・ヴィルサラーゼ（ピアノ）▷ 11・23アンサンブル・ウィーン=ベルリン（九重奏）▷ 1・27宗倫（ヴァイオリン）▷ 3・21徳江比早子（ヴァイオリン）陽子（ピアノ）

平成3年度—10周年記念

▷ 4・14マリー=クレール・アラン オルガン ▷ 5・12バッハ演奏会(1)コラルとカンタータ〔お話& Cem & Org 小林道夫 松野美樹Tp 豊田喜代美Sop 森下幸路・青木高志Vn〕▷ 6・9バッハ演奏会(2)弦楽器とチェンバロ〔お話& Cem 小林道夫 久保田巧Vn 菅野博文Vc〕▷ 6・17パラエティション〔内海桂子・好江 清水アキラ〕▷ 7・16大阪フィル▷ 8・4混声合唱曲「遠野遠音」初演〔作曲柴田南雄 合唱「創る会」田中信昭指揮〕▷ 8・11ブライアン・アシュレーオルガン ▷ 9・13日本舞踊（文化庁移動芸術祭）▷ 9・22東北の作曲家'91 ▷ 9・28仙台フィルハーモニー管弦楽団▷ 9・29伊澤長俊（オルガン）田口秀一（フルート）▷ 10・6バッハ演奏会(3)管楽器とチェンバロ〔お話& Cem 小林道夫 金昌国Fl インゴ・ゴリッキーOboe 前田信吉Fg〕▷ 10・10アルヴォ・ペールト「ヨハネ受難曲」（ヒリアード・アンサンブル）▷ 11・24モーツァルト「レクイエム」〔仙フィル10周年記念合唱団 石川浩指揮〕▷ 12・15バッハ演奏会(4)チェンバロとオルガン〔小林道夫〕▷ 3・21バッハ演奏会(5)協奏曲〔お話& 指揮小林道夫 佐久間由美子Fl 森下幸路Vn チェンバロ・オーケストラ・TOKIO〕



バッハ演奏会(3)

コンサートホールとオルガン

コンサート・ホールにオルガンが設置されているということは、欧米では常識です。なぜなのでしょう。

オルガンやその音楽は数百年の歴史をもっています。そしてそれは実にキリスト教音楽として成育し、その歴史は今日に至るまでそのまま欧米音楽の歴史として存続しています。それは、音楽は神が人間に与え給うた神賛美の最高の手段であると同時に、人間の様々な思いを表現する手段であるという思想から出たものなのです。つまり欧米の音楽の根底には、どんな時代にあっても、どんな内容であってもキリスト教信仰と神を賛美するという思想が流れているのです。だから音楽をやる場所、つまり教会でもコンサート・ホールもオルガンを欠くことは考えられない、常識に外れることなのです。

わが国のようにキリスト教の伝統のないところでは、これまでオルガンをコンサート・ホールにさえ設置することは考えられてきませんでした。しかし近年、楽器として、また音楽の一分野として、オルガンがいかに優れたものであり可能性に富んでいるかが認識されてきました。決してキリスト教にこだわる必要もなく、純粋に音楽的な側面から考えてよいのです。そして、コンサート・ホールはオルガンがあってはじめて完成されるのだという、つまりオーケストラ、合唱、ピアノをはじめ各種の器楽が演奏されるのと同様にオルガンの壮麗な響きも聞くことができるホールなのだというように考えられるようになりました。

バッハホールはコンサート中心のホールとして建設されました。その企画、設計の時点からオルガンを設置することが考えられてきました。音響の面でもそのために留意されています。オルガンという楽器はこのようなホールに設置する程の規模では、建造期間にも費用にも莫大なものがが必要です。費用を考えても、コンサート用グランドピアノの10数倍はかかります。こんな田舎にそんなものを……という声が当然起るでしょう。しかし、地方自治体が独自にオルガンを備えた超一流のコンサート・ホールを持っている、しかもそれは東京以北では中新田町たった一つであるということの意義には、計り知れないものがあります。すでにヨーロッパでも楽界人たちの間で、このホールのことが話題になっています。愉快ではありませんか！わが国の音楽文化の一端が、この中新田の青田の中からも育っていくのです。町長さん、町の議会で考えてくださった方がた、そして勿論町民の皆さん、中新田のすべての方がたの高い文化への貢献する意識には敬服いたします。オルガンを備えたバッハホールは半永久的なものであり、中新田町にとっては勿論、宮城県にとっても誇りです。

オルガン企画・監修
日本オルガン研究会々長
宮城教育大学教授

松 原 茂
（昭和59年4月記、故人）

演奏者からみたバッハホール



作曲家
宮城フィルハーモニー協会理事音楽総監督

芥川 也寸志
(故人)

バッハホール ここに歴史ありー

もしも誰かに、わが国における近代音楽のシンボルは？と問われたら、私は即座に、中新田のバッハ・ホールと答えるであろう。

人口2万人にも満たない東北の町に、おそらく、わが国で望み得る最良の響をもつ、完備した演奏会場が出現したことは、まさに象徴的な出来事である。

中央にもない理想的なホールが、徹として地方に存在するという意味は、日本の近代音楽が新しい時代に入ったということの証左であろう。

このホールで演奏してみたい、このホールで作品を発表してみたい、こんな欲求を音楽家に抱かせるということは、とりも直さず、このホールの創造的な役割りを示すものであり、まさに『地方の時代』を具現するものと言えよう。

命名もよし、バッハ・ホール。

新しい時代の音楽の源泉として、このホールの名が歴史にとどめられる日も、そう遠くはないであろう。

このホールを創った、その精神に栄えあらんことを。

(1981年 記)



ゲヴァントハウス・バッハ
オーケストラ音楽監督
ゲヴァントハウス管弦楽団
第一コンサートマスター

ゲルハルト ボッセ

ライブツィヒ・ゲヴァントハウス・バッハ・オーケストラと一緒に中新田の新しいバッハ・ホールで演奏できてうれしい。同僚もわたしも、このような小都市でこんなにすぐれたホールに出会ってはなはだ驚いた。このバッハ・ホールは、立派なばかりでなく、どんな高度な要求をも満足させる音響効果をもっている。このように音響的に卓越したホールに出会うことはめったになかった。わたしたちは、楽々とほんもののバッハを演奏できた。室内楽には理想的なホールだ。

中新田町の創り出したものは、一個のバッハ・ホールにとどまらず、実に文化センターなのである。これは将来音楽の伝統を形成するための不可欠の前提である。このすばらしいホールが中新田の音楽生活の発展に寄与するのみならず、北日本の多くの都市に強い光明を及ぼすことを願っている。

(1981年 記)

昭和63年7月17日バッハホールで、ヨゼフ・スーク、ダン・タイ・ソン、堤剛による演奏会が実現しました。まさに世界的に有名なソリストによる初の共演です。3人に、ホールの感想などをうかがってみました。

お話／ヨゼフ・スーク
ダン・タイ・ソン
堤 剛

私たちは、みなさんの演奏を心待ちにしており、今日は、東日本の各地からも、たくさんのお客が詰めかけました。

スーク この3人で演奏ができることは私にとっても本当にうれしいことです。しかも、この素晴らしいホールで最初の演奏ができたことは大変な喜びです。

このホールは室内楽を念頭において建てたのですが、演奏者からみていかがですか。

堤 音がとても美しいですし、室内楽には最適なホールです。これだけ空間が大きいと、満席になっても音響効果は変わらないでしょう。

みなさんは世界各地で演奏されていますが、本場のヨーロッパと日本のホールとで、演奏されてみていかがですか。

スーク 今、ヨーロッパでも良いホールを見つけるのはなかなか難しい。プラハにあるドボルザークホールのようにいくつかはありますが、いずれも古いホールです。新しいホールでは、バッハホールのような本当に素晴らしいホールを見つけるのは困難です。室内楽のためのホールとなるとなおさらです。バッハホールは、ヨーロッパの良いホールの音響と非常によく似ています。演奏してみて、心から満足しました。

ソン 私も全く同感です。このホールでは、ピアノ以外の楽器の音もとてもよく聞こえます。これは天井が非常に高いためかもしれません。

堤 そうですね。ピアノ、ヴァイオリン、チェロのそれぞれが、同じように良い音が出る。さらに、合奏すると、よく溶けあったある種の均一性をもった音が生まれてくる。また低音域と高音域とのバランス偏りが無い。これは、非常に稀なことです。残響も長過ぎず短か過ぎず。理想的です。

ソン ホールの雰囲気が大変温かい感じがしました。こんなホールは日本には少ないですね。

スーク ステージにあがった時の雰囲気がいい。音にぬくもりがあるし。

堤 ぬくもりがあること、ここが最も肝心な点ですね。いいホールかどうかは、音の質にかかってきます。これは、大きな響きをつくったりすることとは別の問題です。それに、ステージでも客席でも同じように音がよく響く。

スーク 気持ち良くステージに立てれば、気分も盛り上がってきて新しいインスピレーションも湧いてきます。

ソン とにかくいいホールですね。私にとっては、ここのピアノが素晴らしいのもうれしい。ピアニストにとって、良いピアノに出会うことはとても大事なことです。できれば、ここでレコーディングをしたいと思っています。

スーク プラハで新しいホールをつくるときには、こういうホールがほしい。ところで、バッハホールという名前の由来は。

バッハの音楽は最高ですから。またこの地方の人たちに
そういう普遍的で、優れた音楽に親しむ生活をしてほし
いとの願いもこめられています。

スーク 立派なホールを持っているこの町の人に心から賛辞を
贈りたい。次の機会には、是非この3人でバッハの曲を演奏し
たいものです。

今日の素晴らしい演奏を聴いて、バッハホールを建てて本当に
良かったと思います。ありがとうございました。



夢のトリオ /

バッハホールの音響

“ホールは楽器である”と言われるように、ホールの
持つ音の響きは、その中で繰り広げられる催物、特に、
音楽にとって、重要な要素であり、さらに、個々のホー
ルは、それぞれ独自の響きを持っている。

このバッハホールは、室内楽やリサイタル、小編成の
管弦楽などの演奏会場として使われることを目的に1981
年、中新田町に竣工した文化会館のホールである。従っ
て、このホールは室内楽などの演奏に適した響き、古楽
器などの弱音楽器の繊細な音色にも適した響きをもつ空
間となるように設計されている。

まず初めに、舞台上の音源である楽器や歌手などから
の直接音が各客席で確実に聴きとれるようにすることは
大切である。そのために、客席床の勾配（段床）は、各
客席から前々列の客席の頭越しに舞台先端の床面が見え
るかどうかの検討を基に決める。次に、舞台上の楽器や
歌手などからの音を、舞台上の側面音響反射板や舞台ブ
ロセニウム両袖の壁面および客席側壁面で反射させ、ホ
ールなどの音現評価にとって重要な役割を持つ横方向か
らの初期反射音（直接音に対してわずかに時期遅れで到
着する反射音）として各客席へ確実に届けさせ、直接音を
補強する働きを持たせるとともに、音に拡がり感、豊か
さをもたらすようにそれらの壁面形状を決める。また、
横方向からの初期反射音が到着した後で、舞台および客
席天井からの反射音が各客席へ到達するように、天井の
形状を設計している。

さらに、全体の響きを調整するために、経済的な面も
考慮して、客席側壁のうち舞台側の部分を可聴周波数の
全帯域にわたって音を反射するコンクリート面とし、客
席後部の壁面および舞台と客席の天井面の大部分を石膏
ボードで張り、響きの長さを室内楽などの演奏に適した
周波数特性となるように、使用する材料の選定、配分を
決めている。

このホールには、竣工後3年を経過してパイプオルガ
ンが設置され、ここで演奏される音楽の分野が広がって
きたが、当初から、クラシック音楽の演奏会以外の用途、
講演会や各種集会、映画会、演劇、民謡、落語などの催
物にも使えるように考慮している。

その方法として、前に述べた初期反射音の効果を損う
ことなく、拡散音のエネルギーを減少させ響きを短くす
ることを考えている。すなわち、客席へ有効な初期反射

音を届ける反射面を除いた部分、特に、客席後壁に注目
し、その部分を吸音面から反射面へ、反射面から吸音面
へと変化させることができる装置、残響可変装置を設け
る。残響可変装置の機構にはいろいろなものがあるが、
このホールに採用した方法は二つである。その一つは、
客席後壁上部に設けた上下スライド方式であり、吸音性
の壁面の前を反射性のパネルが上下に移動する方法で、
反射性のパネルが吸音面の前に降りているときに反射性
で響きが長くなり、このパネルが上昇して壁面内装裏に
隠れると背後の吸音壁面が表れ、これに音が当たり吸収
されることになり響きが短くなる。もう一つは、最も簡
単に響きを変えることができるカーテンを利用する方法
である。このホールでは、客席後壁の両隅反射性の壁面
に、上・中・下3段に分けてカーテンを下げる方法を採用
している。カーテンを拡げることにより吸音面となり、
カーテンを側壁の内装裏に収納することにより反射性の
壁が表れ反射性となる。この2つの方法による効果は、
低・中音域の残響時間が0.4～0.5秒短くなることである。
これに加えて、舞台上の音響反射板を回転させ、舞台側
も吸音性にすると、さらに、0.3～0.4秒短くなる。従っ
て、舞台に幕類を下げた講演会や各種集会などの催物に
も使える状態となる。

クラシック音楽の演奏や演劇を楽しむ空間は、外部か
らの交通騒音や空調・換気設備の運転騒音などに邪魔さ
れない静かな環境であることが望ましい。静けさの目標
として、室内騒音の許容値を1/10オクターブバンド別音圧
レベルで示すNC値を用いて表すとNC-20（騒音レ
ベルで30 dBA以下）となる。空調ダクトシステムとし
て、低速ダクト方式を採用したため、ダクトスペース内、
天井裏、壁内装裏などでのダクトの納りの苦しさがあっ
たが、極力ダクト内での騒音発生を抑制すると同時に、
脇舞台大道具搬入口に隣接して冷暖房機械室、電気室が
ある悪条件を克服して設計目標を達成している。

ホールに必要な条件、静かな環境、豊かな音量、自然
な音質、適度な響きを満たしている。

建物（器）が完成してから10年、オルガン演奏会から
室内楽、リサイタル、ジャズ、コーラス、民謡、お芝居、
落語、映画会までこのホールの特性を生かして地域住民
のために働いてきて始めてホールになってきたように思
う。と同時に、ホールの手入れ、油差し、栄養の補給も
忘れないで可愛いがっていただきたいと考える。

古川建築音響研究所

古川 宣一

